

アルミ水素 研究報告

金沢で会議 将来ビジョン検討



アルミ水素の取り組みについて説明する川口教授（右）＝石川県女性センター

北陸アルミ水素将来ビジョン検討会議の進捗報告会が5日、金沢市の石川県女

性センターで開かれた。同会議座長の川口清司富山大学大学院工学研究部教授ら

が、アルミを活用した水素社会の実現に向けた研究成果を紹介した。

会議は昨年、有識者や企業、自治体、各種団体が参加して発足。富山の基幹産業であるアルミを水と化学反応させて製造したアルミ水素を、エネルギーとして地産地消する循環システムの構築を目指している。

川口教授は、家庭などで出たアルミ付き紙パックをアルミとバルブに分離し、そのアルミを使って発生さ

せた水素を地域のイベントでエネルギーとして利用したことを報告。アルミ水素は高純度で、製造時の二酸化炭素排出量が少ないなどメリットを挙げ、今後は製造の低コスト化が期待できるとした。

技術系シンクタンクのテクノバ（東京）の丸田昭輝エネルギー水素グループマネージャが「二酸化炭素（CO₂）削減のため社会的に水素が必要になっていく。北陸地方のアルミから水素エネル

ギーを有効活用した水素社会の構想を考える「北陸アルミ水素将来ビジョン検討会議」は5日、金沢市内で報告会を開き、大学や自治体関係者ら七十人が聴講した。

基調講演では、技術系シンクタンクのテクノバ（東京）の丸田昭輝エネルギー水素グループマネージャが「二酸化炭素（CO₂）削減のため社会的に水素が必要になっていく。北陸地方のアルミから水素エネル

ギーを生み出せると発信すべきだ」と訴えた。

検討会議座長の川口清司・富山大学大学院教授（工学）はガソリン車のエンジンや駆動部品に再利用されている廃アルミが、電気自動車（EV）の普及で不要になるとし「リサイクルしたアルミの使い道が少なくなるためエネルギーとして取り出すのが有効」と話した。

検討会議は昨年八月に産学連携で発足。資源エネルギーシステム開発のアルハイテック（富山県高岡市）が事務局を務めている。

（阿部竹虎、小川祥）

アルミ水素活用 進ちょくを報告

金沢で北陸ビジョン会議

北陸のアルミやエネルギー関連企業などによる「北陸アルミ水素将来ビジョン検討会議」の報告会は5日、

金沢市の石川県女性センターで開かれ、昨年秋に示したビジョンの進ちょく状況が発表された。同会議はアルミ廃材から発生させた水素を電気エネルギーとして活用するリサイクル実験を振り取り、需要が見込める

ビジョンでは2020年代中ごろのシステム構築を

アルミ水素の活用 富大・川口教授報告

北陸ビジョン会議

北陸のアルミやエネルギー関連企業などによる「北陸アルミ水素将来ビジョン検討会議」の報告会は5日、金沢市の石川県女性センターで開かれ、昨年秋に示したビジョンの進ちょく状況が発表された。同会議はアルミ廃材から発生させた水素を電気エネルギーとして活用するリサイクルの需要が見込めるとした。

ビジョンでは2020年代中ごろのシステム構築を目指している。座長の川口清司富山大学大学院教授は富山市内に来春新設される燃料電池車の水素供給ステーションを紹介した。

金沢市の石川県女性センターで開かれ、昨年秋に示したビジョンの進ちょく状況が発表された。同会議はアルミ廃材から発生させた水素を電気エネルギーとして活用するリサイクル実験を振り取り、需要が見込める

ビジョンでは2020年代中ごろのシステム構築を

目指している。座長の川口清司富山大学大学院教授は富山市内で燃料電池車に水素を供給するステーションが来春新設されることを紹介した。

水素エネルギーの展覧に関する講演や、富山、福井両県で進められている水素エネルギーの取り組み事例紹介などもあった。